

二条良基研究

小川剛生著

ISBN4-305-10362-1

定価:本体14,000円(税別)

A5判・上製函入・672頁

●初版訂正箇所一覧

【本文】

- 13頁11行 第五章 → 第四章
- 50頁後2行 『禁裏公家文庫研究』第二輯 思文閣出版 近刊予定 → 『禁裏・公家文庫研究』第二輯 思文閣出版 平18
- 110頁後6行 次第と同じ → 次第と異なる
- 117頁注(10)に以下の一文を追加「東山御文庫蔵「天皇御元服式」(勅封一四三・一〇、江戸前期写、一冊)。石田実洋氏の御教示による。これとは別に元服次第も現存する。」
- 124頁後4行 万里小路西・富小路東 → 万里小路東・富小路西
- 139頁10～13行 訂正

「そして文明十二年十二月二十一日、持通は押小路烏丸殿に戻った。「今日二条大閣御新造御移住云々、押小路室町御所、御山水如元」とある(大乘院寺社雑事記)。ただ殿舎の再建の方は進まなかったようで、十八年二月二十九日になって持通室の「御座御所」の立柱を行っている(政覚大僧正記)。また尋尊が同年七月二十日に二条家を訪れた時も「新造御所」と書いている。それから四ヶ月後、持通は亭泉記に奥書を加えたことになる。」

- 196頁 追加

【附記】

本稿で紹介した後福照院関白消息をはじめ東山御文庫蔵即位灌頂史料は、室町期より禁裏文庫に伝わったもので、いずれも後西天皇の整理を経ている。そのことは御本御目録(勅封一二〇・一三・二)から窺われる。この目録は霊元天皇に譲位後、進上した記録文書の書き上げと考えられている(石田実洋氏の御教示による)。「甲下」と題された第二紙は即位関係書が掲載され、その冒頭に次のようにある。〔 〕内は現在の書名と勅封番号。

後小松院御記御即位日神秘事 一冊〔後小松天皇宸記_{応永廿一年十二月廿五日御即位日神秘事} 勅封六七・五・一〇〕

大礼秘事後普光園作 一卷〔大礼秘事 勅封一四二・四八〕

後福照院關白消息御即位神秘之事 一々〔後福照院關白消息即位秘密事 勅封六六・五・三〕

仰詞案寛正六十廿六 一枚〔御即位日神秘御伝授御下問状写 勅封六六・四・五〕

同関白勅答之写 一枚〔即位灌頂印明事拔書 勅封六六・四・一二〕

即位灌頂當家奉授例 一枚〔歴代即位灌頂伝授者交名 勅封六六・七・五・一〕

後西院は在位中から禁裏本の副本を作ることに意を用いたが、これらも文庫から取り出されていて、万治四年(一六六一)の内裏焼亡を免れたのである。このうち「大礼秘事」のみ言及できなかつ

たが、即位式の由来と印明伝授につき説いた七〇〇字程の文書で、外題にやはり後西院筆で「大礼秘事故撰政注之」とある。奥に「嘉慶二年六月一日記之」とあり、良基薨去直前の作となるが、応安の後円融即位を「今度」とするなど、いくつか疑問点がある。但し後西院筆禁裏本の性格からすれば、親本は室町期より伝わる古本と推定され、それが持基の言う「一日進上仕候故撰政書たる物」（消息C）であった可能性も高い。内容も同時期の二条家の文書ほど粉飾されておらず、注意される。なお史料の読解には別府節子氏・遠藤珠紀氏・末柄豊氏より御教示をいただいた。深謝申し上げます。

- 178頁後7行 目録は後人の筆 → 外題と目録は後西天皇の筆
- 216頁2行 「その一つで、」の次に「一条兼良の解説では」を追加
- 238頁10行ルビ〔師〕 → 〔帥〕
- 243頁系図 ○経通—経通=経嗣 → ○経通=経嗣
- 260頁12行 ことが多い。 → ことになる。
- 380頁4行 末尾に「なお、藤寿のことは申楽談儀にも言及がある。」を追加。
- 396頁後5行 有職学はも → 有職学も
- 462頁6行 用意されたこと → 利用されたこと
- 463頁10行 学者は、 → 文学者は、
- 480頁7行 /川/ → /河/
- 512頁5行 諸本形成 → 本文形成
- 564頁後6行 高松宮蔵御手鑑 → 高松宮蔵御手鑑（京都国立博物館現蔵）

【索引】

- 索引21頁左下2行 御即位印時 → 御即位印事
- 索引14頁左2行 後深草院関白 → 後深心院関白

【年譜】

- 596頁
建武四年条 10・15基房・兼実の問答より*宇治入条々を編み松風要抄に加える（九条家本識語）
- 602頁後6行
文和元年条 辛櫃 → 唐櫃
- 620頁
至徳三年条 式を作進 *天皇御元服次第後小松天皇→ 式と次第を作進 *天皇御即位式 *天皇御元服次第後小松天皇
- 621頁 追加
嘉慶元年条 8・24改元定、辞退後初めて参内（迎）
嘉慶二年条 6・1大礼秘事を著すという
康応元年条 削除
応永七年条 6・13常住院（道意の坊か）にて仏事あり、聴聞人頗る多し（鎮増私聞書）